



今年度交代される委員さんからメッセージいただきました！！

昨年設立50周年をむかえ、今では当たり前のように存在している守る会ですが、委員さんはどのような思いをもって参画されているのか、定例会ではどのように協議が進められているのか等、その中身を知る機会はなかなかないのではないのでしょうか。そこで今年度任期を終えられる委員さんに「守る会に参画して得た学び」「これからの守る会に期待すること」という切り口で感じたことをお聞きしました。

◆木戸口真希さん(女性会)……守る会への参画は貴重な経験でした。最初はわからない事ばかりで蚊帳の外に感じましたが、回数を重ねるごとにもっと知りたいと思うようになり、毎回学んでいるようで楽しかったです。議題に上がる事柄を協議し色や材質、そこまで考えるのか！というところまで深く掘り下げていく姿勢は素晴らしいと感じました。あと会の最中に沈黙の時間がありましたよね？これ言うとおかしいかな？なんて思って発言を躊躇してしまう事が私にはあります。もっとざっくばらんに話ができる雰囲気づくりも大切かなと思います。一年間ありがとうございました。

◆川田里子さん(女性会)……コロナ禍ということでオンラインでの会議が多く、戸惑うこともありましたが良い経験でした。10月の集落内視察にも参加させていただきましたが、改めて景観保全と生活する上での利便性とのバランスが難しいなと思いました。会議では、なかなか意見が出ず時間ばかりが経っていただけなので、もっと活発な意見交換が出来ると思います。

◆矢野智代美さん(女性会)……定例会にはあまり参加することができなかったのですが、特にオンラインでの参加は苦手でした。集まりの場のほうが参加しやすかったので、コロナ禍で難しいとは思いますが、できるだけ通常通りの集まりができるといいなと思います。色々勉強になり楽しかったです。

◆清水喜代美さん(民宿連絡協議会)……守る会は伝建地区ならびに世界遺産地域に住む者として本当に誇るべき組織だと思います。それは景観を守っていくための自助組織であり、単なる規制するためのものではなく住民にも浸透しているシステムなので、そこに一時期関わったことはとても得難い経験でした。以前とは変わっている部分もあり非常に勉強になりました。毎月の定例会で次回会議の日時のお知らせがありますが、皆さんお忙しい中で予定を調整することも大変だと思うので、ハガキ、もしくはグループライン、メール等で複数回知らせてもらうとよかったかもしれないと思いました。あと会議の時間が長引くと苦痛なときがありました。申請件数が多かったり、慎重な審議が必要で致し方ないとは思いましたが、普段「会議」に慣れてない主婦ですので午後10時過ぎになったりしますと、座ってられない気がしました(笑)。また、ZOOMを使うことによってコロナ禍でも毎月の会議が途絶えなかったことと、それに参加することができて良かったです。

荻町地区に暮らす全ての住人が守る会の会員です。現在守る会に参画されている方はもちろん、これから守る会の委員になられる方や、なかなか関わる機会がない方にも、ぜひ守る会の中身を知っていただき、共に地域の景観や暮らしを守っていけたらいいなと思いました。

また今回いただいたありのままの思いや貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の守る会の運営に活かしていきたいと思っておりますし、「ねそ」を有効活用して情報発信を行ってまいります。お忙しい中お話を聞かせてくださった委員の皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。次号以降、この続きを掲載していく予定です

【文責:福田】

守る会50周年記念事業の報告！！・・・

節目となる1年、住民みんなで50年を振り返り、次なる50年につなぐイベントや懇親会をと夢を膨らませていましたが、世界を襲うコロナ禍の感染拡大。早い段階にて住民の安全を優先した取り組みにシフトし、次の3つの事業の達成を目指しました。

①里山や茅場の環境整備：今年度は役員が中心となって取り組み、集落北面の茅場造成に取り組みました。

②50周年記念誌の発行：原稿が集まり校正段階に。年度内の完成を目指してはありますが、遅れています。申し訳ありません。40周年記念誌でこれまでの守る会の歴史を記録できましたので、今回は近年10年の取り組みと次なる50年に向けたメッセージを。

③荻町未来会議オンライン開催：12月11日実施済。5年前の重伝建40周年記念イベントで開催した荻町未来会議（住民と子どもたちが一緒になってこれからの荻町を考えるワークショップ）の第2弾を実施。現在故郷を離れて生活している学生や若者、地元住民や白川郷学園の子どもたち、白川郷を外からみつめる支援者ら20名を超えるメンバーを、ビデオやZOOMでつなぎ、「これからの結」をテーマに話し合いました。これを記念誌や映像にまとめ発信する予定です。なお、先月「ねそ」と共に配付しました日本ナショナルトラスト会報誌『報』に50周年の取り組みが掲載されていますので、ぜひそちらもご覧ください。（上の写真は、昨年4月9日の定例会にて写した出席委員集合写真です。皆様の一年間の取り組みに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。）



（上の写真は、昨年4月9日の定例会にて写した出席委員集合写真です。皆様の一年間の取り組みに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。）

【文責：和田】

＝ 2月の活動報告 ＝

2月 9日 2月定例会@Zoom
2月 10日 ねそ2月号配付

2月 10日 日本イコモス賞新聞取材（会長）
2月 28日 村民学学年コーディネーター会議@Zoom
【4月の定例会は11日（月）に開催を予定しています。】

☆ 3月の協議事項（現状変更申請に関わって）☆

***** 垂木・桁損傷部取り替え・屋根葺替え ***** 修復に伴う諸々の箇所
***** 仮設丸太屋根 ***** 建具の取り替え ***** 外壁塗装

守る会活動スローガン ～ 守る・くらす・つなぐ～

- ①守る：住民憲章を基盤とした、世界遺産である合掌家屋と農山村の景観保全
- ②くらす：結の精神が根ざした共同体と、景観に調和した豊かな住民生活の向上
- ③つなぐ：故郷から学び、国内外の交流から学び、未来への継承者を育成

守る会よ永遠なれ！！・・・

3月末日をもって、守る会会長職を辞させていただく運びとなりました。事務局6年、会長10年、合わせて16年間守る会に参画させていただきました。何も分かっていない私でしたが、諸先輩方や委員、住民の皆様を支えていただき、何とか続けることができました。心より感謝申し上げます。守る会は景観保全の最前線。時に住民の方々から我慢を強いる立場にもあり、正直参画するのがつらいこともありましたが、何度話し合っても、何度会議を繰り返しても事が進んでいかないことも。ある有識者に弱音をこぼすと、「全国様々な地域をみてきたが、その多くは行政にぶって投げたり無関心な住民の集まり。荻町ほど会議を繰り返す、熱く関わり合う仲間がいる地域は知らない。大丈夫、継続は力なり。」と断言くださいました。守る会の強みは、住民全てが会員であること。熱く語る仲間がいること。そして、それが連綿とつながり今があるのだと。次代につなぐべく、素晴らしい次期会長を皆様に選任いただきました。今後も守る会への変わらぬご支援ご協力を、お願い申し上げます。

【守る会7代目会長 和田正人】

※センガ岩倉庫の入れ替えは3月27日（日）午前8時～9時を予定しています。使用料は昨年と変更ありません（別紙）。なお、使用料金を現地に集金いたしますので、お忘れなくお持ちください。申込み〆切は3月20日（日）まで。不明な点は、一般環境部長川田までお願いします。